

1 基本項目	事務事業名	水族館施設整備事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	施設整備事業			係名	管理係			
	事業区分	自治事務			電話番号	0765-24-4100			
	事業期間	開始年度	平成20年		終了年度	当面継続	予会計	水族館事業特別会計	
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			算科目目	款	1. 水族館費	
		政策名	10 明日を担うづくり				項	1. 水族館費	
		施策名	31 生涯学習の推進				目	1. 水族館管理費	
		基本事業名	31-3 博物館の充実				アウトソーシング導入状況	導入予定なし	
根拠法令				総合計画等への記載	総合計画実施計画に記載				

2 事業概要	事業概要	水族館施設の大規模な新規及び改修整備に関する施設改修事業	
	対象	①入館者②魚津水族館館内設備	
	手段 (活動指標)	大規模な整備に関する施設改修工事	
	意図 (成果指標)	効果的な改修を行い、今後10年にわたっての安定運営を図る。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	①年間入館者数	人	150,000	187,306	150,000	144,991	96.7%	150,000	
	②								
	③								
	成果指標	①入館者の前年対比	%	106.6	133.1	100.0	77.4	77.4%	100.0
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円						
	②委託料	円			475,000	253,800		
	③工事請負費	円	16,593,647	16,534,350	10,800,000	10,797,376	-34.7%	9,000,000
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円	1,500,000	1,470,000				
	支出合計 (A)	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000
	⑤一般財源	円						
収入合計	円	18,093,647	18,004,350	11,275,000	11,051,176	-38.6%	9,000,000	
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人	5	5	5	2	-60.0%	2
	②年間所要時間	時間	500	500	800	700	40.0%	700
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	2,100,000	2,100,000	3,360,000	2,940,000	40.0%	2,940,000
総費用(A+B)	円	20,193,647	20,104,350	14,635,000	13,991,176	-30.4%	11,940,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○ペンギンプール防水塗装及び野鳥進入対策工事	
	○魚津水族館外周柵更新工事	
	○魚津水族館洋式トイレ改修工事	
	○ドテザメ架台更新工事	
	○大型淡水魚水槽濾過槽ポンプ更新工事	
	○魚津水族館入口横室外横目隠しパネル設置工事	
	○波の水槽ポンプ更新工事	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						2次評価	不要
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため	
				目的の妥当性	1 妥当である	入館者の要望や劣化による緊急性	
				対象の妥当性	1 妥当である	入館者の安全性、展示を考えると妥当である	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	入館者の要望と安全、またポンプを交換することにより飼育生物の安全を確保できた	
				類似事業の有無	1 なし	対象となる施設がない	
				上位施策への貢献度	1 高い	生物展示が安全にできる。また入館者の安全性が高くなる	
効率性	効率性	A	A	コスト効率	2 普通	適正に入札を行っている。	
				実施主体の適正化	2 改善の余地あり	事業が増大している。大型施設設備のための設計ができる技師が不在である。	
				負担割合の適正化	1 適正である	市所有施設による市単独事業のため	
1次評価 (課長総括)		A	A	計画どおり事業を実施することが適当		2次評価	不要
後の方針	26年度において、長期的な施設整備計画を検討したところ、10年間で10億円以上の施設整備費が見積もられ、莫大な予算が必要であることが明らかになった。緊急性及び必要性の高いものから計画的に整備が必要であり、毎年、大きな支出が見込まれる。				評価結果		

1 基本項目	事務事業名	観光資源強化事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	観光資源強化事業		係名	管理係				
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100				
	事業期間	開始年度	平成26年度	終了年度	平成27年度	予会計	水族館事業特別会計		
	総合計画	目標名	基本目標 1 にぎわい、活力あるまち				算科目目	款	1. 水族館費
		政策名	5 交流と連携によるにぎわい創出					項	1. 水族館費
		施策名	9 観光の振興					目	1. 水族館管理費
基本事業名	9-1 観光資源のブランド力向上と整備				アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
根拠法令					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	北陸新幹線開業に合わせて、魚津水族館の魅力向上を図るとともに、首都圏からの来訪者に魅力をアピールし、魚津市への観光客誘致につなげる。
	対象	①入館者
	手段 (活動指標)	テレビ、新聞、雑誌等への広告掲載 新コーナー設置
	意図 (成果指標)	入館者数の増

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	①年間入館者数	人	150,000	187,306	150,000	144,991	96.7%	150,000	
	②								
	③								
	成果指標	①入館者の前年対比	%	106.6	133.1	100.0	77.4	77.4%	100.0
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	①需用費	円			600,000	168,912		
	②委託料	円			3,000,000	2,359,152		800,000
	③工事請負費	円						
	④負担金補助及び交付金	円						
	⑤その他	円			5,013,000	4,222,644		1,200,000
	支出合計 (A)	円	0	0	8,613,000	6,750,708		2,000,000
財源内訳	①国庫支出金	円						
	②県支出金	円						
	③地方債	円						
	④その他(使用料、雑入等)	円			8,613,000	7,050,708		2,000,000
	⑤一般財源	円						
	収入合計	円	0	0	8,613,000	7,050,708		2,000,000
人件費	①事務事業に携わる正規職員数	人			5	4		4
	②年間所要時間	時間			1,500	1,860		1,860
	③人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	0	0	6,300,000	7,812,000		7,812,000
総費用(A+B)	円	0	0	14,913,000	14,562,708		9,812,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	○ホームページデザインリニューアル○リユウグウノツカイコーナー新設(ガチャガチャ設置)○越中緋解説コーナー新設○ブリ模型製作○ホタルイカ水槽新設○シラエビ水槽新設○魚津水族館PR番組制作○番組配信(CATV)○魚津水族館CM製作・放送(旅チャンネル)○北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅タッチパネル式広告○祝 北陸新幹線開業看板設置○北陸三水族館館合同キャンペーン	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	0	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	ニーズを踏まえて行っている
対象の妥当性					1 妥当である	魚津市の観光客誘致につながっている
有効性	有効性	0	A	目標達成度	1 高い	入館者数に反映している
				類似事業の有無	1 なし	水族館から情報発信し観光客の誘致に努めている。
				上位施策への貢献度	1 高い	魚津市への観光客誘致につながっている。
効率性	効率性	0	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている。
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から情報発信し、魚津市全体の観光客の増加を図っている。
				負担割合の適正化	1 適正である	北陸新幹線開業に合わせた期間限定の事業のため
1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	要	部会評価
後の方針 (評価結果)	北陸新幹線開業に合わせた事業は、平成26年度において可能なことは行っており、27年度も継続的に事業展開している。今後は、物品販売を兼ねたPR戦略など、新たに効率的な観光資源強化事業が必要と思われる。				評価結果	魚津市全体の今後の観光資源強化事業について

1 基本項目	事務事業名	水族館企画展事業		担当部署	課名	水族博物館	
	予算事業名	企画展事業			係名	飼育研究係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100		
	事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち		予会計	水族館事業特別会計	
		政策名	10 明日を担うづくり		款	1. 水族館費	
		施策名	31 生涯学習の推進		項	2. 水族館費	
基本事業名		31-3 博物館の充実		目	1. 水族館管理費		
根拠法令			アウトソーシング導入状況	導入予定なし			
			総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載			

2 事業概要	事業概要	担当者が世間情勢を考慮しながらテーマを選び、特別展会場を中心に年に数回開催する。					
	対象	来館者					
	手段 (活動指標)	夏の特別展、ホタルイカ展示、クリスマス展、ハロウィーン特別展示、干支展					
	意図 (成果指標)	企画展を通して、入館者は生物に対して興味がわき、知識が増える。					

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 企画展の実施回数	回	6	6	6	6	100.0%	6	
	②								
	③								
	成果指標	① 特別展開催期間中入場者数/年間入場者数	%	100	80	100	100	100.0%	100
		②							
		③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	1,094,000	685,836	1,106,000	771,664	12.5%	512,000
	② 委託料	円			944,000	513,810		942,000
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円	1,043,534	587,229	146,000	46,358	-92.1%	344,000
	支出合計 (A)	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
	⑤ 一般財源	円						
	収入合計	円	2,137,534	1,273,065	2,196,000	1,331,832	4.6%	1,798,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	1,800	1,800	1,800	1,560	-13.3%	1,560
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	7,560,000	7,560,000	7,560,000	6,552,000	-13.3%	6,552,000
	総費用 (A+B)	円	9,697,534	8,833,065	9,756,000	7,883,832	-10.7%	8,350,000

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容					
	○ホタルイカ展示					
	○夏の特別展 イエー!みんなの家展:「家:すみか」をテーマにした企画展した。					
	○ハロウィーン水槽設置					
	○クリスマス展					
	○冬の特別展示:紅白エビ合戦					

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由	
						2次評価	不要
妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である	当館は、市で経営しているため	
				目的の妥当性	1 妥当である	その時の話題性を踏まえて行っている	
				対象の妥当性	1 妥当である	水族館への集客につながっている	
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	多くの入館者が企画展を見ている	
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない	
				上位施策への貢献度	1 高い	特別展を通して、多くの入館者が生物の知識につながっている	
効率性	効率性	B	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている	
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に情報を提供している	
				負担割合の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に生物の情報を提供できるため	
	1次評価 (課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要	
	後(課長)の評価 評価結果及び今後の方針	企画展事業の中でも、春の期間と夏休みの期間は重要で、来館者を惹きつけたり、満足させられる企画が求められる。そのためには、準備期間を3年ほど取り、計画を早めに行っていくことが重要で、予算もそれに合わせた形にするべきである。また、予算が多くなるが、外部のイベントを入れることも考えられる。これにより、宣伝は早くかけられるようになり、来館者増につながる可能性が大きい。				評価結果	

1 基本項目	事務事業名	水族館博物館事業		担当部署	課名	水族博物館	
	予算事業名	博物館事業			係名	飼育研究係	
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100		
	事業期間	開始年度	昭和56年	終了年度	当面継続		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち			予会計	水族館事業特別会計
		政策名	10 明日を担う人づくり			款	1. 水族館費
		施策名	31 生涯学習の推進			項	2. 水族館費
基本事業名		31-3 博物館の充実			目	1. 水族館管理費	
根拠法令					アウトソーシング導入状況	導入予定なし	
					総合計画等への記載	総合計画に主要事業として記載	

2 事業概要	事業概要	①水族館の常設展示生物の飼育・展示 ②調査研究 ③普及活動に関わること	
	対象	①常設展示生物 ②入館者 ③普及活動	
	手段(活動指標)	①水族館の常設展示生物の飼育・展示 ②調査研究 ③うおづ水辺の調査隊活動等	
	意図(成果指標)	①水族館の展示生物をよい状態で飼育・展示ができる ②調査研究の結果を年報やホームページで公表する ③普及活動により、水生生物に対する理解が向上する	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度	
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画	
活動指標	① 展示生物	点	10,000	11,000	11,000	10,000	90.9%	10,000	
	② 調査研究数	件	4	3	3	3	100.0%	3	
	③ 普及活動参加人数	人	8,000	7,000	8,000	8,000	100.0%	8,000	
	成果指標	① 本年度展示生物数/前年度の展示生物数	%	100	100	100	100	100.0%	100
		② 論文・報告発表数	数	8	3	8	5	62.5%	5
		③ 普及活動の満足度	%	100	100	100	100	100.0%	100

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	7,082,961	6,143,769	7,965,547	6,411,893	4.4%	7,729,000
	② 委託料	円			500,000	340,200		
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円			330,000	330,000		326,000
	⑤ その他	円	1,488,375	1,285,085	719,000	493,543	-61.6%	1,471,000
	支出合計(A)	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他(使用料、雑入等)	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
	⑤ 一般財源	円						
	収入合計	円	8,571,336	7,428,854	9,514,547	7,575,636	2.0%	9,526,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	1,800	1,800	1,800	1,700	-5.6%	1,700
	③ 人件費(②×@ 4,200円)(B)	円	7,560,000	7,560,000	7,560,000	7,140,000	-5.6%	7,140,000
	総費用(A+B)	円	16,131,336	14,988,854	17,074,547	14,715,636	-1.8%	16,666,000

平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容

5 取組内容	○ホタルイカ発光実験開催
	○うおづ水辺の調査隊活動の実施：今回の活動は、自分で疑問を持ち、自分で解決し発表を行った。
	○アウトリーチ活動の実施：25年度は、市内の小学校に魚津の河川で見られる淡水魚と海岸の生物水槽のいずれかを設置した。
	○発光実験サマーバージョン2014を開催
	○水槽クリニック：市内小学校に配布したメダカの確認と調整
	○魚津市内の淡水魚、両生爬虫類および野鳥の調査を行った。

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	A	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	入館者の要望や話題性
対象の妥当性					1 妥当である	水族館への集客につながっている
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	水族館への集客につながっている
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない
				上位施策への貢献度	1 高い	水族館への集客につながっている
効率性	効率性	B	B	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている
				実施主体の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に情報を提供している
				負担割合の適正化	1 適正である	水族館から多くの入館者に生物の情報を提供できるため
	1次評価(課長総括)	A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
	後の方針(評価結果)	博物館事業は水族館の命であり、この部分の充実に力を入れるのは欠かすことができない。これまで、リニューアルなどで通常展示はよくなっているため、恒常的な展示更新や、普及活動などを行って、情報を発信することで、魚津水族館の魅力をアピールしたい。				評価結果

1 基本項目	事務事業名	市史編纂動物調査事業		担当部署	課名	水族博物館			
	予算事業名	市史編纂動物調査事業			係名	飼育研究係			
	事業区分	自治事務		電話番号	0765-24-4100				
	事業期間	開始年度	平成25年度	終了年度	平成28年度	予会計	水族館事業特別会計		
	総合計画	目標名	基本目標 4 人と文化を育むまち				算科目	款	1. 水族館費
		政策名	11 豊かな心を育む文化とスポーツの振興					項	2. 水族館費
		施策名	33 文化の振興					目	1. 水族館管理費
基本事業名	33-2 地域の歴史や文化の保存・継承				アウトソーシング導入状況		導入予定なし		
根拠法令					総合計画等への記載		総合計画に主要事業として記載		

2 事業概要	事業概要	魚津市史自然編纂の基礎データを蓄積するため、市内の生物に関する調査を行う。	
	対象	魚津市内の生物全般	
	手段 (活動指標)	野外調査、資料（文献・書籍等）の情報収集	
	意図 (成果指標)	魚津市史自然編の発刊に必要な情報や資料を、野外調査や情報収集によって集積する。	

3 指標	指標名	単位	25年度		26年度			27年度
			計画	実績	計画	実績	達成率	計画
活動指標	① 野外調査日数	日	20	20	50	30	60.0%	30
	②							
	③							
成果指標	① 調査による情報収集率	%	30	30	53	50	94.3%	100
	②							
	③							

4 コスト情報	区分	単位	25年度		26年度			27年度
			予算現額	決算額	予算現額	決算額	決算増減率	当初予算額
支出内訳	① 需用費	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	193,000
	② 委託料	円						
	③ 工事請負費	円						
	④ 負担金補助及び交付金	円						
	⑤ その他	円						100,000
	支出合計 (A)	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	293,000
財源内訳	① 国庫支出金	円						
	② 県支出金	円						
	③ 地方債	円						
	④ その他 (使用料、雑入等)	円			150,000	99,036		293,000
	⑤ 一般財源	円	150,000	112,382				
	収入合計	円	150,000	112,382	150,000	99,036	-11.9%	293,000
人件費	① 事務事業に携わる正規職員数	人	3	3	3	3	0.0%	3
	② 年間所要時間	時間	300	200	300	900	350.0%	900
	③ 人件費 (②×@ 4,200 円) (B)	円	1,260,000	840,000	1,260,000	3,780,000	350.0%	3,780,000
総費用 (A+B)	円	1,410,000	952,382	1,410,000	3,879,036	307.3%	4,073,000	

5 取組内容	平成26年度に取り組んだ事務事業の内容及び改善内容	
	魚津市内の生物調査	

6 評価	評価の視点	H25評価	H26評価	評価項目	評価結果	評価の理由
	妥当性	妥当性	0	A	自治体関与の妥当性	1 妥当である
目的の妥当性					1 妥当である	市史編纂のための市内の生物調査であるため
対象の妥当性					1 妥当である	生物データの蓄積につながっている
有効性	有効性	A	A	目標達成度	2 目標どおり	屋外調査を行うことで、展示にも反映されている
				類似事業の有無	1 なし	県内唯一の施設のため、類似施設はない
				上位施策への貢献度	1 高い	調査を行うことで、データの蓄積だけでなく展示にも反映されている
効率性	効率性	A	A	コスト効率	2 普通	コスト効率が高い事業を行っている
				実施主体の適正化	1 適正である	調査を行うことで、データの蓄積につながっている
				負担割合の適正化	1 適正である	調査を行うことで、データの蓄積だけでなく展示にも反映されている
1次評価 (課長総括)		A	A	計画どおり事業を実施することが適当	2次評価	不要
後の方針 (評価結果及び今後の)	市史自然詩編は、魚津市の水循環が育む自然のバイブルとなるもので、その作成とともに、活用を考えていく必要がある。水族館は、任されている分野の調査を進めるとともに、取りまとめの準備にかかる必要がある。				評価結果	